

1 学校経営の基本理念

- (1) 楽しさのある学校
○分かる授業、温かい人間関係、一人一人の存在感、自己肯定感、主体的・対話的で深い学び
- (2) 厳しさのある学校
○基本的な生活習慣、規範意識、礼儀、礼節、規律、相手の立場を考える、自分に厳しく
- (3) 信頼感のある学校
○校風、責任感、互いの理解、心身の健康、一人一人を大切にする、開かれた学校、3S

2 久松の目指す学校像

- (1) 久松に学ぶ喜びと誇りをもてる学校 … 学んでよかった
○確かな学力の定着、豊かな心・健やかな体の育成(知・徳・体の調和)重視、深い学び
- (2) よりよい校風を創る学校 … 通わせてよかった
○保護者・地域社会・校友と手を携える
- (3) 組織的・主体的に指導・実践する学校 … 勤めてよかった
○久松職員の自覚をもつ 情報共有 組織的対応 みんなで動く

3 久松小学校の教育目標

「強く」「正しく」「豊かに」

- 心身ともに健康で、自律と自立のための強い意志と向上心を持ち、自らよりよい成長を目指す。
- ものごとを正しく見つけ、正しい判断と行動のできる主体性を身に付ける。
- 豊かな心情や創造性を高め、互いに尊重し合い、思いやりの心を持ち、共生社会の新しい時代の担い手となる。

4 自ら期する校長像

校長は、最終責任者として「総ての事柄の責任は自分に帰する」を肝に銘じ、子どもたちの利益を最優先に、常に周囲への感謝の念を持ち、教育の基盤である信頼関係構築を大切にする。

- (1) 全体の奉仕者として、公平・公正の精神で接し、子どものために全力を尽くす。
- (2) 「迅速・的確・誠実」をモットーに、学校の安定的改革を目指す。
- (3) 判断は、法的、教育的、人間的の3点から総合的、全体的な視野に立ち、責任をもって行う。
- (4) 危機管理の徹底に努める。
- (5) 「対話」を大切にする。

5 期待する教師像

- (1) 教育のプロとして日々精進する教師
V バイタリティー (活力)
S スペシャリティー (専門性)
O オリジナリティー (独自性)
P パーソナリティー (人間性)
- (2) 教育公務員として
ルールとマナーを守るとともに、保護者や地域の願いに応え、連携・協力しあって教育にあたる
ことができる教師。

6 経営の基本方針

- (1) 令和6年度の重点「豊かな心と健やかな体の育成」
～教育活動の質の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントの充実～

①豊かな心

- 違いを認め、互いに尊重し合い学び合う温かい人間関係を育むために、「小集団活動の推進・学び合い」「異年齢活動・交流活動の推進」「久松しぐさ」を重視する。

②健やかな体

- 自らの健康・体力についての関心を高め自己管理能力を育成するために、仲間とともに体を動かす楽しさを味わう機会ときっかけ、マイスクールスポーツ・夏季水泳指導の充実、体育・保健学習・食育の充実と健康教育を重視する。

そのために、年間を通じた教育課程の充実を図る。

(2) 特に重視すること

- ① これからの時代に必要な3つの柱「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を核とした資質・能力の育成を目指した教育課程を編成する。

- ② 校内研究として、研究主題「教育活動の質の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントの充実」に向けて、これまでの積み上げを大事に、日常的に全教科等を通して学校全体で研究・研修に取り組む。
- ③ 校内研究の一層の充実と幼稚園の教育課程との一貫性・連続性のある「久松すくすくプラン」に基づいた教育を家庭とともに推進する。また、人権教育・道徳教育、学校 2020 レガシーを生かした教育を推進する。
- ④ 「分かる授業」を実践する。小集団活動を核とする学び合い、言語活動の充実によって、児童が主体的に思考を深め、互いの考えを豊かに表現し、共有し合い、深い学びを推進する。
- ⑤ 一人一人の児童の個性を伸ばし能力を開発するために、個に応じた指導方法を改善する。また、特別支援教室「スマイル」「あおぞら」の指導を一層充実させる。
- ⑥ 教員の授業力を高めるため、交換授業、全員による実践報告会を行う。
- ⑦ 開かれた学校づくりを推進するため、家庭や地域社会、多様な関係団体と互いに「見える、言える、動ける」関係を深めるとともに、近隣の幼稚園、保育園、中学校等と交流活動の機会や連絡会を積極的に設定する。また、学校公開とホームページの活用等を一層推進する。
- ⑧ 読書活動の充実に努める。
- ⑨ ICT 活用について、積極的活用から「効果的活用」を図る（デジタルシチズンシップ）。

(3) 学習指導・特別活動・特色ある教育活動

- 基礎的・基本的な内容を確実に身に付けるために、常に指導の在り方を工夫・改善する。
- 個に応じた指導を充実させる。
- 個々の児童の特性に応じて、巡回指導教員や特別支援教室専門員等と連携を図る。
- 道徳科を要として教育活動全体を通して人と人とのふれあいを重視した指導を実践する。
- 外国語に親しみ、関心を深める児童を育成する。
- 問題解決能力を育て生きる力を育むために「わくわく久松」（総合的な学習の時間）の充実を図る。
- 相手の立場を理解し行動する態度を育てるために「久松しぐさ」の取組を一層重視する。
- 異年齢活動・交流活動・幼小一貫の教育活動・その他の交流活動を重視する。
- コミュニケーション能力の育成・小集団活動の推進・言語活動の充実を図る。
- 健康増進・体力向上のために、運動することの楽しさや上達することの喜びを味わわせる。
- 勤労生産・奉仕活動を推進する。
- 久松らしさを受け継ぎ、「自主・自律」の精神と豊かな心に支えられた「気品と風格」を学校生活の全体を通して意識付ける。
- 学校 2020 レガシーを生かした教育の取組を一層重視する。

(4) 生活指導・進路指導

- いじめを許さない強い心と相手を思いやる温かい人間性を育てる。日常的に情報の共有を図り、「いじめを生まない学校」づくりに取り組む。
- 不登校を未然に防ぐために、保護者やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・関係機関と連携した校内指導体制を充実させる。
- 児童の安全を確保するために、不審者対策や登下校の安全及び環境整備の充実に努め、家庭や地域社会・久松警察と連携したセーフティ教室を実施する。
- 希望や目標をもって生涯にわたって主体的に生きる力の素地を養うために、中学校と連携して、部活動体験や授業見学の機会を設ける。また、人間関係形成能力や意思決定能力を育成する。

(5) 学年・学級・専科等の経営

- ① 学年経営に重点を置き共通理解を図り、学年内の協働、専科との連携の日常化に努め、オープンな風通しのよい人間関係の中で、集団的な指導に努める。
- ② 安定した学級経営がすべての土台である。共感と相互尊重の心温かなまとまりのある学級、子どもの自己表現や活躍の場のある学級づくりに努める。
- ③ 常に子どものよさや可能性に目を向け、児童理解を基盤にした学年・学級づくりや教科指導等を進める。

(6) 研修・研究活動

- ① 一人一人の子どもの課題や対応、教科等の指導の在り方について率直に語り、学び合う学年会、職員室にしていく。
- ② 校内研究は、児童理解や指導力向上のための絶好の機会ととらえ、意欲的に進め相互研鑽する。
- ③ 国・都・区の研究会・研修会に積極的に参加し、指導力向上や新しい情報を得る機会とする。

(7) 環境づくり

- ① 校舎内外の学習環境には、常に子どもの生き生きと学ぶ姿が見えるように努める。
- ② 施設設備の点検を全教職員で定期的に行い、安心して安全に学習できる環境づくりに努める。

(8) 予算・事務

- ① 効率的効果的な予算執行に努める。
- ② 校務改善の視点から、学校全体でできることから改善する小さな積み重ねに努める。

(9) 服務の厳正

公務員は全体の奉仕者である。特に、教育公務員は高い法令遵守とモラル意識が求められている。勤務時間内外を問わず常に自覚し、服務違反を絶対しないようにする。

- ① 事案決定の徹底
対外文書、職員会議等での提案文書は、事案決定を必ず行う。
- ② 体罰の厳禁
体罰は暴力であり、子どもや保護者との信頼関係を損なう。体罰は絶対あってはならない。
- ③ 交通事故、交通違反0
常に心身の安定を図り、交通ルールを守り、安全運転をする。
- ④ 個人情報や文書、金銭の適正な管理の徹底
個人情報の保護、学校内文書や情報の適切な管理、公費及び私費会計の適正な取り扱いを徹底する。特に、私費会計事務の適切な執行を行い、会計事故を起こさないようにする。

(10) その他

- ① 「健康安全第一」
- ② 「働き方改革」 ・ 「働きやすさ」と「働きがい」。
- ② ライフ・ワーク・バランスへの配慮
- ③ メンタルヘルスへの配慮

◆令和6年度の課題

- 【課題1】児童数の増加 【課題2】新たな取組の定着
【課題3】幼小連携 【課題4】働き方改革

◆課題に向けた改善策・工夫等

1 「児童数の増加に対応するさらなる工夫・改善」

- 個人登校（校門は3つ）。 ○様々な行事や活動でその都度。

2 「新たな取組の定着」

- 入学式の二部制。 ○全学年毎年度のクラス替え。
○一足制。 ○ペーパーレス化。○クールビズ期間の設定。 等。

3 「幼小連携」

- 日常的な交流活動の工夫。 ・ オンラインも活用しながら。
○幼小合同イベント。 ・ 「久松フェスティバル」（学校園・家庭・地域が一体）。等。

4 【働き方改革】

- 働き方を常に意識し、具体的な取組を工夫する（学校・学年・専科・個人等）。
①校務支援システムやICTの活用。
②職員会議なし。会議の精選。主任会（年12回）・学年会（年11回）の設定。
③年12回のノー残業デー（B4時程会議なし）の有効活用。個人の時間確保。
④管理職による進行管理（「時間外在校等時間」等）。
⑤時差勤務の積極的活用 ・ 「時間」を意識し、大切に。

* 感染症、熱中症等に配慮しながら活動の幅を広げる

○ 基本的な感染症対策を意識する

・ 「手洗い・うがい 人との距離 換気」の意識。

○ キーワードは上手に「分散」や「ICT活用」。児童数増加も踏まえ、一つ一つ丁寧に。

・ 全校朝会や避難訓練は基本的には3学年ずつ分散。

・ ICTを活用した儀式的行事や集会活動等。

・ 給食時の班ごとの対面型。

・ オンラインを活用した幼小連携 等。

○ 「マスク着用」についての基本的な考え方

・ 区の方針を踏まえ、児童・生徒及び教職員については、マスク着用を求めないことを基本とする。

・ 場に応じて、使い分けることを大事にする。

【参照】

○ 3S：スマイル・スピード・サービス

○ 危機対応の「さしすせそ」

さ 最悪を想定して し 慎重に す 素早く せ 誠意をもって そ 組織で

○ 日常的に「あいうえお」を大切に

あ 挨拶を大切に い いやな顔せず う 上から視線は禁物 え 笑顔で お 押しすぎない

東京都教育委員会の教育目標

東京都教育委員会は、子供たちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、

○ 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間

○ 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間

○ 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間の育成に向けた教育を重視する。

また、学校教育及び社会教育を充実し、だれもが生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合うことができる社会の実現を図る。

そして、教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して行われなければならないものであるとの認識に立って、すべての都民が教育に参加することを目指していく。

中央区教育委員会の教育目標

○ 子どもたちが希望に満ち、自らの未来を切り拓いていけるように

・ 思いやりの心、健康な体、強い意志をもつ人 ・ すすんで学び、考え、行動する人

・ 人の役に立つことを積極的に行う人 の育成に向けた教育を推進します。

○ 子どものころから生涯を通じて、文化やスポーツなどの活動に親しむことができるよう、関係機関等と連携して生涯学習を推進します。